

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和2年度（2020年度）評価報告書

令和3年（2021年）7月
佐久市

<目次>

令和元年度改訂版佐久市人口ビジョン 概要	・ ・ ・ ・ ・ P 2
第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要	・ ・ ・ ・ ・ P 3
第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 体系図	・ ・ ・ ・ ・ P 4
第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価方法	・ ・ ・ ・ ・ P 6
基本目標1 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 8
基本目標1 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 10
基本目標2 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 13
基本目標2 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 15
基本目標3 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 17
基本目標3 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 19
基本目標4 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 21
基本目標4 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 23
地方創生推進交付金事業の効果検証	・ ・ ・ ・ ・ P 27

令和元年度改訂版佐久市人口ビジョン 第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要

令和元年度改訂版佐久市人口ビジョン 概要（令和2年（2020年）3月改訂）

○ 改訂の経緯

平成27年に「佐久市人口ビジョン」を策定し4年が経過していることから、改めて人口の現状分析を行い、最新の人口の将来推計に基づき、人口ビジョンを改訂

人口ビジョンの位置付けと対象期間

（位置付け）

- 本市における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもの
- まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策の企画・立案する上での重要な基礎として位置付け（対象期間）

- 対象期間は、令和42年度（2060年度）まで

人口の現状分析と将来人口推計

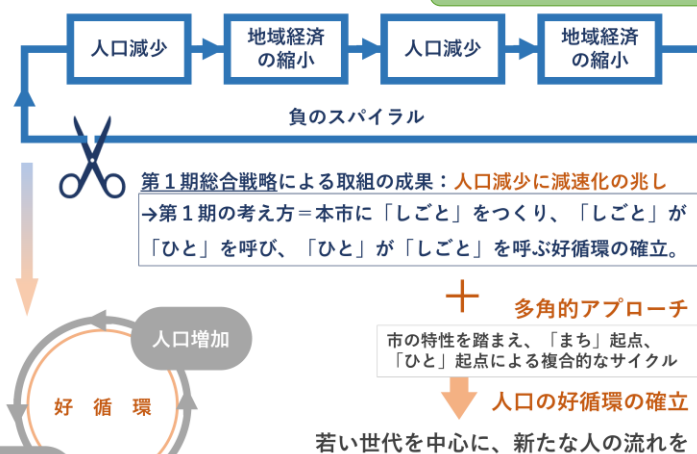
（現状分析）

- 本市の総人口は平成22年（2010年）をピークに減少に転じ、令和元年（2019年）の人口は98,609人
 - ※ 一方、世帯数は増加傾向にあり、令和元年（2019年）の世帯数は40,083世帯
- 自然動態は自然減の状態が続いており、合計特殊出生率は1.59（2018年）で女性人口（15～49歳）も減少傾向であり、男女とも生涯未婚率（50歳時未婚率）が上昇傾向
- 社会動態は、転入が平成24年（2012年）以降、転出が平成25年（2013年）以降それぞれ増加に転じ、近年は転入が転出を上回る社会増

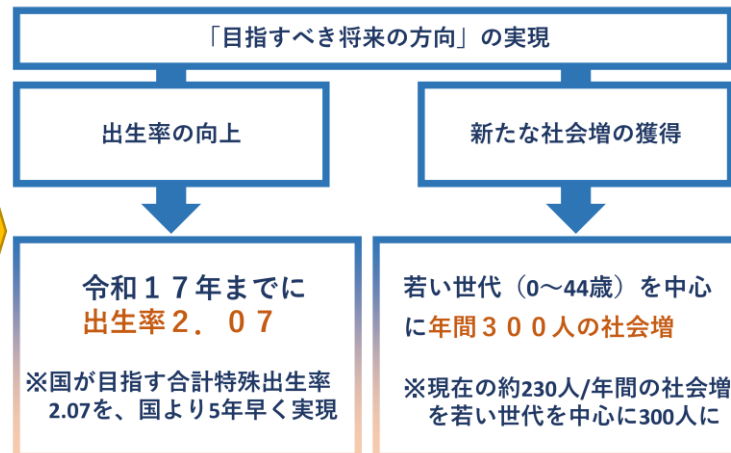
（将来推計）

- 令和22年（2040年）には9万人を下回り、令和37年（2055年）には8万人を下回る
- 老年人口比率は令和42年（2060年）に43.2%に達し、2015年に比べ約15%上昇

人口の将来展望



<目指すべき将来の方向>



<人口の将来展望>

- 令和42年（2060年）の国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計は、72,436人

- 改訂した人口ビジョンによる将来展望推計は、85,789人

人口規模86,000人を目標とし、人口構造の若返りを目指す

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要（令和3年（2021年）7月改訂）

基本的な考え方

第1期総合戦略による取組で得られた「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環の確実な弱まりを受け、この悪循環を反転させ、好循環に結び付けるための具体策に切れ目なく着手していくことが必要であることから、令和2年（2020年）3月に、「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（計画期間：令和2年度～令和6年度）

○ 「基本目標」、「基本の方針」の基本方針

- ・ 第1期総合戦略で設定した4つの基本目標は維持
- ・ 第1期のような網羅的なものではなく、中長期的なビジョンを持った上でこの時期何をすべきかを明確化し、特化・鋭角化
- ・ 「しごと」を作り、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」が活性化する「しごと」起点という性質に加え、本市の特性を踏まえ、「まち」起点、「ひと」起点による複合的なサイクルといった多角的アプローチにより好循環を確立

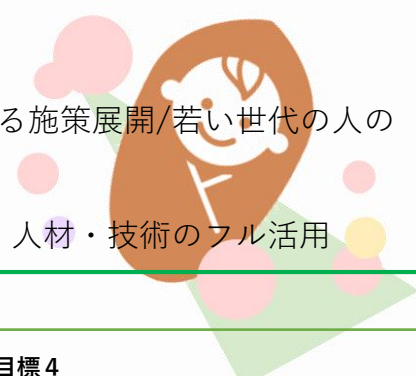
○ 「具体的な施策」の基本方針

あらゆる施策において立脚すべき考え方と、時代の流れを踏まえて横断的に適用すべき手法を新たに設定（立脚すべき考え方）

- ・ 卓越性を磨き、生かす施策展開/地域ごとの特徴を磨き上げ、個性化する施策展開/市民が誇りを持てる施策展開/若い世代の人の流れを具体化する施策展開/長期ビジョンを明確化した施策展開/人口減少を意識した施策展開

（横断的に適用すべき手法）

- ・ ターゲットの明確化とそこまで届く情報発信/未来技術の活用/国外の活力の活用/民間の発想・資金・人材・技術のフル活用



基本目標

基本目標1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における「まち」の創生	基本目標2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における「ひと」の創生	基本目標3 結婚・出産に先んじて子育てのトップラナーを目指す、佐久市における「しごと」の創生	基本目標4 多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生
○ 数値目標 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 基準値：78.0%（R1（2019）） ➤ 目標値：80.0%（R6（2024））	○ 数値目標 人口の社会動態の増加数（計画期間の累計） 目標値：1,500人（R6（2024））	○ 数値目標 合計特殊出生率 基準値：1.59（H30（2018）） ➤ 目標値：1.77（R6（2024））	○ 数値目標 市内事業所の従業員数 基準値：40,237人（H28（2016）） ➤ 目標値：41,800人（R6（2024））

「まち」・「ひと」・「しごと」の創生で目指すべき将来

● 時代に適応した地域が作られ、ネットワークで結ばれ、住民が生きがい豊かに安心して暮らし続けている。	● 本市の卓越した魅力が育まれ、その魅力に惹かれて、若い人を中心に地域内外の多くの人が集っている。	● 若い世代の結婚、出産、子育ての希望がかない、安心して子どもを生み、育てている。	● 魅力的で多様性のある仕事生まれ育ち、住民が安心して働き、経済的な安定を得ている。
--	---	---	--

【目指すべき将来】

「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」を実現し、将来に渡って活力ある地域であり続ける。

【目指す人口】

「佐久市人口ビジョン（令和元年度改訂版）」に掲げる人口の将来展望の実現
令和42年の目標人口＝約86,000人

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <体系図>

【目指すべき将来】「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」となり、将来に渡って活力ある地域であり続ける！

「まち」の創生

時代に適応した地域をつくる

「ひと」の創生

魅力を育み、人が集う

人口減少を和らげる

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

「しごと」の創生

魅力ある仕事と経済的安定を生む

【第2期戦略で目指す方向】

基本目標

具体的な施策

1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、
佐久市における「まち」の創生

(数値目標) 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合

- (1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進
- (2) 新たな技術でつなぐ地域間ネットワークの構築

2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 人口の社会動態の増加数

- (1) 知ったら行きたくなる・住み続けたい「シル」の推進
- (2) 来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進
- (3) 居たら住みたくなる・住み続けたい「スム」の推進

3 結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 合計特殊出生率

- (1) 子育て世代が実感する子育てのトップランナーの実現
- (2) 人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

4 多様な職場、多様な働き方から始める、
佐久市における「しごと」の創生

(数値目標) 市内事業所の従業者数

- (1) 新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出
- (2) 世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進
- (3) 官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

施策立案で「立脚すべき考え方」と
「横断的に適用する手法」

【立脚すべき考え方】

卓越性を磨き、生かす

地域ごとの特徴を磨き、個性化する

市民が誇りを持てる

若い世代の人の流れを具現化する

長期ビジョンを明確化する

人口減少を意識する

【横断的に適用する手法】

ターゲットの明確化と情報発信

未来技術の活用

国外の活力の活用

民間活力の活用

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価方法

評価方法

- 総合戦略に基づく事業を着実に推進するため、PDCAサイクルを確立することが必要とされていることから、その進捗について評価し、今後の施策や事業の改善に活用
- 数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を客観的に把握し、外部の視点も含めて評価を行い、その結果を公表

※ PDCAサイクルとは…

Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。Plan-Doとして効果的な地方版総合戦略の策定・実施、Checkとして地方版総合戦略の成果の客観的な検証、Actionとして検証結果を踏まえた施策の見直しや地方版総合戦略の改訂を行うことが求められる。



進捗状況

- 基本目標の数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗区分は、以下のとおり管理

順調	概ね順調	努力を要する	未公表	実績値なし
R2の実績値が目安値以上	R2の実績値が目安値の80%以上100%未満	R2の実績値が目安値の80%未満	統計調査結果が未公表のため、現時点では実績値が把握できない	・統計調査の実施がなく、今後も実績値が把握できない ・目安値・実績値がともに0の場合

※ 目安値：令和6年度（2024年度）の目標達成に向けて、指標が順調に推移しているかどうかの目安を表す値。多くの目標において、基準値から目標値に向かって均等に推移することを標準パターンとして設定。ただし、均等な推移が見込めない等これによりがたい場合は、その指標の特性を踏まえて目安値を設定。

※ 進捗率 = (実績値 - 基準値) / (目標値 (目安値) - 基準値) で算出

R2の進捗状況【数値目標】

基本目標1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における「まち」の創生		基本目標2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における「ひと」の創生		基本目標3 結婚・出産に先んじて子育てのトッランナーを目指す、佐久市における「しごと」の創生		基本目標4 多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生	
○ 数値目標 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 基準値：78.0%（R1（2019）） ➤ 目標値：80.0%（R6（2024））		○ 数値目標 人口の社会動態の増加数（計画期間の累計） 目標値：1,500人（R6（2024））		○ 数値目標 合計特殊出生率 基準値：1.59（H30（2018）） ➤ 目標値：1.77（R6（2024））		○ 数値目標 市内事業所の従業員数 基準値：40,237人（H28（2016）） ➤ 目標値：41,800人（R6（2024））	
R2目安値 78.4%	R2実績値 81.4%	R2目安値 300人	R2実績値 326人	R2目安値 1.60	R2実績値 —	R2目安値 —	R2実績値 —
順調		順調		非公表		実績値なし	

基本目標 1

基本目標 1 「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 【満足度・重要度市民アンケート】	目安値		78.4	78.8	79.2	79.6	80.0	%
	実績値	78.0	81.4					
	進捗区分		順調					
総合分析	基本目標1の数値目標は、満足度・重要度市民アンケートに基づき設定しています。 「『佐久市は住みやすい』と回答する人の割合」について、R2実績値を見ると「順調」となり、これまでの調査の中で最も高い数値となりました。施策と住みやすさの相関を見ると、住みやすいと回答した人の評価が高い施策として、「医療」（59.9%）、「消防・救急」（52.8%）、「高速交通ネットワーク」（52.4%）、「健康増進」（52.1%）、「保健活動」（50.7%）が上位を占めている一方で、住みにくいと回答した人の評価が低い施策としては、「就労・雇用」（59.1%）、「住宅」（46.6%）、「地域交通ネットワーク」（46.6%）、「土地利用」（43.2%）、「市街地」（42.0%）が上位を占める結果となりました。 満足度・重要度がともに高い施策は「医療関連」「教育関連」や「高速交通ネットワーク」「健康増進」と佐久市の強みがあげられている一方、満足度が低く、重要度が高い早急に対応が求められる施策は、「就労・雇用」、子育て関連の保健・福祉といった働き盛り世代向けの施策や、「地域交通ネットワーク」となっています。今後、更に満足度を上げるためには、働き盛り世代への施策の充実や地域公共交通の見直しが必要となります。 また、住みやすさは高い順に、「浅間」84.6%、「中込」82.4%、「野沢」81.8%となっている一方、低い順では、「望月」73.9%、「浅科」76.7%、「臼田」81.1%となっており、佐久市の中心地から離れた地域において、住みやすさが低くなる傾向があります。 ※ 満足度は、「満足」と「やや満足」の合算値となります。							
R3の取組方針	住民が生活やライフスタイルの素晴らしさを実感し、生きがい豊かに安心して暮らし続けていくためには、それを支える「まち」が重要であり、第1期総合戦略から進める活力ある「まち」の創生に向けた施策に引き続き取り組む必要があります。「まち」の魅力を更に高みに押し上げるにより「ひと」や「しごと」を呼び込む、「まち」起点の取組を強化するとともに、「まち」の創生を基本目標の筆頭に据えて推進します。さらには、満足度の低い施策の充実にも応える必要があります。 「地域交通ネットワーク」に係る取組として、市民の移動ニーズや交通弱者に配慮した、「分かりやすい」・「使いやすい」、そして、まちづくりとも連携した新たな公共交通体系の構築を目指し、新たな移動手段を用いた実証運行を10月から開始し、より利用者等の意見を反映させ、需要に応じた移動手段の強化や利便性の向上を図ります。 また、「就労・雇用」に係る取組として、新型コロナウイルス感染症の影響により、都市圏を中心にリモートワーク実施企業が急増し、組織内外とのやり取りにおいても対面ではなくウェブ会議で行うケースも増えていることから、本市においても、東京圏の人口集中を緩和し、地方移住・就業を拡大する可能性のある今般の感染症を受けた新しい働き方に対応した環境を整備します。							

基本目標 1 「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 (1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進

指標名	年度別 評価	H27 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
居住誘導区域内の 人口密度（国勢調 査ベース）【都市 計画課調】	目安値		26.2	－	－	－	26.2	人/ha
	実績値	26.2	－					
	進捗区分		未公表					
進捗状況の分析	居住誘導区域内の人口（人口密度）の把握に際しては、国勢調査のメッシュ人口データを活用することが想定されますが、調査実施からメッシュデータの公表まで時間を要するため、迅速な集計を行うことが困難です。 なお、佐久平駅周辺の人口が増加しているエリアが居住誘導区域外であることや、防災指針を加味した立地適正化計画の改定を予定しており、居住誘導区域が変更となる可能性があることから、今後の人口密度の分析については不透明です。							

指標名	年度別 評価	H30 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
防災訓練を実施した自主防災組織の割合【危機管理課調】	目安値		70	80	90	95	100	%
	実績値	66	33					
	進捗区分		努力を要する					
進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、訓練を中止した自主防災組織が多くありました。 今後は、出前講座などを通じて、自主防災組織の防災意識啓発に努め、安否確認訓練など効果的な防災訓練の実施を促進します。 ※ 自主防災組織は、ほぼ全区で組織済み（馬坂区、広川原区、美笹区、泉区を除く）							

基本目標 1 「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 (2) 新たな技術でつなぐネットワークの構築

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
「高度情報ネットワーク」についての満足度【満足度・重要度市民アンケート】	目安値		16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	%
	実績値	15.4	16.5					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	平成29年から市内公共施設を対象とした公衆無線LAN（W i - F i ）環境の整備を行い、令和元年度には41施設で公衆無線LANの利用が可能となりました。 ながの電子申請サービスを利用した届出手続等のオンライン化について、子育てや健康に関する恒常的な手続きや、期間限定のイベントへの申込やアンケートなどでの利用を積極的に行い、市民サービスの向上に努めました。							

指標名	年度別 評価	H30 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
公共交通延べ利用者数【生活環境課調】	目安値		115,400	117,800	120,200	122,600	125,000	人
	実績値	113,022	92,467					
	進捗区分		概ね順調					
進捗状況の分析	各路線の乗降データなどから改善策を検討し、運行ダイヤや運行ルートの見直し・改善を実施しながら、概ね順調に進捗していましたが、廃止代替バス路線の廃止・減便による路線バス利用者の減少や、令和元年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛等の影響を受け、利用者数は減少となりました。 そのような状況においても、概ね目安値を達成しました。							

基本目標 1 に係る具体的な取組の進捗状況

(1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進

- ① 佐久平駅南土地地区画整理事業への支援
 - ・ 土地地区画整理法及び市の土地地区画整理事業助成要綱に基づく組合への技術的・財政的支援
 - ・ 県及び国との農地転用協議支援、保留地購入企業の契約等支援、物件移転補償契約の支援、組合発注による道路、調整池、造成工事等の技術的支援
 - ・ 関係機関との協議支援
- ② 佐久平駅周辺及び岩村田地区における健康長寿まちづくり
 - ・ 健康長寿を核としたまちづくりを推進するため、「健康長寿まちづくりの方向性を全市へ波及するための構想」を策定
 - ・ もともとの宿場町であった岩村田の歴史・文化を取り戻しつつ持続可能な新たなまちをつくるという方針に基づき、「都市再生整備計画（基本計画）」を策定
- ③ 臼田地区における佐久総合病院を核としたまちづくり（ハード整備については完了）
 - ・ 毎回テーマをもって、地域の人々が集まりコミュニティ活動を行う「地域の保健室はぐみ」の実施（39回開催）
 - ・ 佐久病院の医師や職員とお茶を飲みながら病気のことなどを気軽に語らう「佐久病院とお茶べり」の実施（19回開催）
- ④ 野沢地区における「暮らしやすさ」を生かしたまちづくり
 - ・ 令和元年度に策定した「野沢地区暮らしやすさ構想」に基づき、野沢小学校に隣接した県民佐久運動広場跡地に野沢児童館の移転整備及び子育てに関する様々な相談にワンストップで対応する子育て支援センター（仮称）を併設するための測量業務の実施
- ⑤ 中込地区における新たなまちづくり構想の策定
 - ・ 中込地区の現状を把握するための中込地区関係者個別ヒアリングの実施
 - ・ 第1回中込地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議の開催（3/23）
- ⑥ 居心地がよく、歩きたくなるまちなかづくりの推進
 - ・ 佐久市都市計画マスタープランの基本理念である「プレスメイキング」（居心地が良くにぎわいのある公共空間と地域の居場所づくり）を目指し、まちなみの形成を検討
 - ・ 国土交通省が実施する「ウォーカブル推進都市」に賛同し、全てのまちづくりを進める上でウォーカブルの視点に立った検討
- ⑦ 災害に強いまちづくりの推進
 - ・ 大規模自然災害が発生しても機能不全に陥らず、より強くしなやかな地域の構築を目指すため、本市の強靱化に関する指針となる「佐久市国土強靱化地域計画」を令和3年3月に策定

(2) 新たな技術でつなぐネットワークの構築

- ① 道路や情報通信網の整備・維持
 - ・ 都市計画道路跡部臼田線第3工区の整備完了
 - ・ 都市計画道路見直しに伴う、代替路線の舗装修繕
 - ・ 県施行事業への負担金支出（相生大手線、相生赤岩線）
 - ・ 茂田井陸橋ほか5橋の橋梁修繕設計及び修繕工事
 - ・ 入沢・常和における県河川改良復旧事業における計画調整
 - ・ 佐久ケーブルテレビ㈱と連携した、ケーブルテレビ伝送路網の光化整備の開始（浅科地区と中込地区の一部）
 - ・ 市民の安心安全の確保を図るため、整備を開始した光伝送路網を活用し、公立の小・中学校、保育園、児童館の防犯カメラシステムを整備
- ② 新たな公共交通体系の構築
 - ・ 新たな公共交通体系の構築に向け、公共交通事業者等との意見交換や庁内検討の実施
- ③ 過疎地域における医療供給の安定化
 - ・ 川西保健衛生組合病院の運営費に対する補助負担金の支出 69,960千円（H30年度～R4年度）
 - ・ 佐久市春日出張診療所：御鹿の郷ふれあいセンターにおける川西赤十字病院（第2・4金曜日）、岡田医院（第1・3水曜日）の医師による診療業務
 - ・ 佐久市布施出張診療所：布施出張診療所における毎週（10月及び11月は第2、12月以降は第2）火曜日に浅間病院の医師による診療業務
 - ・ 佐久市湯沢無医地区出張診療所：湯沢公民館における毎週金曜日に岡田医院の医師による診療業務

基本目標 2

基本目標 2 「佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における『ひと』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
人口の社会動態の 増加数（計画期間 の累計） 【長野県毎月人口 異動調査】	目安値		300	600	900	1,200	1,500	人
	実績値	0	326					
	進捗区分		順調					
総合分析	基本目標 2 の数値目標である「人口の社会増（転入者数－転出者数）」は、第 1 期総合戦略期間では累計で1,147人の社会増となり、R2年度（初年度）においても人口の社会増実績値は目標値を上回っており順調です。 （R2 ： 転入者数 3,552人－転出者数 3,226人＝326人） 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、東京圏からの転出超過となるなど、国民の意識や行動にも変容がみられ、地方移住への関心が高まっていることから、その効果もあるとみられます。 今後も、佐久市に「住んでみたい」、「住み続けたい」と感じてもらうためにも、高速交通網の充実や医療福祉の充実等本市の卓越性を国内外へ発信するなど、多くの人が集う魅力あふれるまちづくりに資する取組を推進することが必要です。							
R3の取組方針	人口の社会増は続いているものの、全国的に人口が減少し、今後ますます地域間競争の激化が見込まれます。その中で、これまでの流れの確実化や更なる強化を図ることで、今後も多くの人に「住んでみたい」、「住み続けたい」と感じてもらえる地域であり続けることが必要です。 R3年度は、まずは短期間本市に来てもらい、本市を知ってもらう「試住」にスポットをあて、「試住」から「定住」へ繋げる取組をシティプロモーション施策と連携しながら行うとともに、「社会増」がセミナーや移住相談、補助金の交付といった今まで取り組んできた移住施策の成果であるのかの分析も図ります。 また、市民が本市を「知る」ことで本市の魅力を再発見し、誇りが醸成されることから、転出の抑制やU ターンの増加に効果のある施策の構築を図ります。							

基本目標 2 「佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における『ひと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 （1）知ったら行きたくなる・住み続けたくなる「シル」の推進

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
東京圏在住20代から40代までの世代の佐久市の認知度【広報広聴課調】	目安値		43.0	46.0	49.0	52.0	55.0	%
	実績値	41.6	41.5					
	進捗区分		努力を要する					
進捗状況の分析	「リモート市役所」は「自治体が運営するオンラインサロン」、「主にビジネスで使われるSlackを活用した」ことが話題となり、IT系のメディアを中心にメディア露出、SNSで拡散され、対前年比で見ると数値は上がりましたが、目安値を達成できませんでした。引き続き認知度を向上させるための施策に取り組みます。							

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 （2）来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
東京圏在住20代から40代までの世代の佐久市への来訪指数【広報広聴課調】	目安値		23.0	24.5	26.0	27.5	29.0	%
	実績値	21.6	20.3					
	進捗区分		努力を要する					
進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染症の影響により「クル」を推進する施策を実施することができず、目安値を達成できませんでした。引き続き認知度を向上させるための施策に取り組みます。							

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 （3）居たら住みたくなる・住み続けたくなる「スム」の推進

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
東京圏在住20代から40代までの世代の佐久市への移住者数（計画期間の累計）【広報広聴課調】	目安値		23	36	49	62	75	人
	実績値	12	39					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	「リモート市役所」は「自治体が運営するオンラインサロン」、「主にビジネスで使われるSlackを活用した」ことが話題となり、IT系のメディアを中心にメディア露出、SNSで拡散され、また、新型コロナウイルス感染症の影響による「リモートワーク」の認知度の増加から、目安値を達成し移住者数は増加しました。引き続き認知度を向上させるための施策に取り組みます。							

基本目標2に係る具体的な取組の進捗状況

(1) 知ったら行きたくなる・住み続けたくなる「シル」の推進

- ① シティプロモーションによる本市の魅力の発信
(別途記載済み)
- ② 各種メディアを活用したPRの強化
- ③ 医療・健康の強みを生かした東京圏における認知話題化策の推進
 - ・ メディア向け、ニュースリリース、ニュースレターの配信 2本
 - ・ 東京圏認知話題化施策として、Slackを使ったオンラインサロン「リモート市役所」開設
 - ・ 佐久市にゆかりのあるゲストを招いたオンラインイベント開催 全4回
 - ・ マガジンハウス「Hanako」3月号 HanakoTravelにて佐久市の特集記事掲載 1本
 - ・ 「あんふあんWeb」子育て情報の記事掲載 2本
 - ・ 市内事業者向けPRセミナー実施 全4回
- ④ 著名人×佐久市コラボレーション事業の実施
 - ・ 北斗の拳マンホールの配布(R2.10.26～) @プラザ佐久、佐久市下水道管理センター(配布数:2,615枚)
 - ・ 第3期武論尊100時間漫画塾の開塾(塾生:27名)
 - ・ NHK大河ドラマ「青天を衝け」主人公の渋沢栄一ゆかりの地としての詩碑周辺整備及び観光PR事業
- ⑤ シビックプライド醸成の推進
 - ・ 佐久平地域まるごとキャンパス事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止(R3は実施予定)

(2) 来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進

- ① 地域資源を生かした「暮らすような滞在」の推進
 - ・ 御鹿の郷「望月・春日」地域ブランディング事業による、地域資源を活かした「暮らすような滞在」の提供により、関係人口・つながり人口の創出
- ② 外国人観光客(インバウンド)の誘客推進
 - ・ アフターコロナに向け、外国人観光客(インバウンド)誘客に向けた市内宿泊施設等へのアンケート実施
- ③ キャンプ場から広がる持続可能な観光地域づくり
(R3からの実施事業(R3長野県元気づくり支援金事業))

(3) 居たら住みたくなる・住み続けたくなる「スム」の推進

- ① 移住に向けた「入口対策」の充実
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、対面による移住相談セミナー及び移住体験住宅を活用したお試し移住中止
 - ・ オンラインを活用した移住相談セミナーの実施
- ② 「空き家バンク」、「お住まいオーダー」の活用による住まいの確保支援
 - ・ 「空き家バンク」webサイトに物件を掲載するとともに、「空き家相談会」や「お住まいオーダー」制度の実施による物件の掘り起こし

【成立件数】

空き家バンク 新規物件登録数:19件、契約成立数:19件
お住まいオーダー 戸建て住宅:1件、土地売買:2件
- ③ 移住に当たっての補助制度の構築・運用
 - ・ 「移住促進住宅取得費等補助金」、「リモートワーク実践者スタートアップ支援金」、「U I J ターン就業・創業移住支援事業補助金」の交付

【交付実績】

移住促進住宅取得費等補助金:総額8,750千円
リモートワーク実践者スタートアップ補助金:総額5,935千円
U I J ターン就業・創業移住支援事業補助金:総額1,600千円

基本目標 3

基本目標3「結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、佐久市における『ひと』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年度別 評価	H30 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
合計特殊出生率 【健康づくり推進 課調】	目安値		1.60	1.63	1.67	1.72	1.77	—
	実績値	1.59	—					
	進捗区分	※R1は1.55	未公表					
総合分析	基本目標3の数値目標は、国の基幹統計調査に基づき算出をしています。R2はR3年10月頃に把握が可能となる予定で、実績値を把握することができないことから、「未公表」となります。 なお、厚生労働省が発表した、令和2年度の全国の合計特殊出生率は1.34と前年から0.02低下し、5年連続低下しています。また、妊娠届の件数も87万2,227件で過去最少を更新し、長野県内でも1万3,209件と前年比で5.7%低下しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による出産や子育てへの不安から「妊娠控え」が起きたとみられます。令和2年後半から令和3年にかけての出生数に反映されるため、令和3年の出生数が80万人を割り込み、70万人になることが濃厚となりました。 本市の「合計特殊出生率」は、R2は未公表ですが、H26（1.59）から横ばいとなっています。年齢階級別女子人口を前年度と比較すると、出産可能年齢層のうち、特に25～44歳で減少幅が大きくなっています。それに伴い、出生数も減少し、特に30～39歳で減少の割合が大きくなっていることから、その層に訴求する、特長ある取組が必要です。							
R3の取組方針	人口の自然動態については、国、県の動向より高水準ではありますが、依然として人口の自然減の影響による人口減少が続いていることから、第1期総合戦略による取組に加え、更なる対策が必要です。 価値観やライフスタイルの多様化などはあるものの、子どもを生み育てたいという希望が確実にある中、まずは既に子どもを生む選択をした家庭に対し、第1子を生むための支援や、第2子、第3子を生み育てるための不安の払しょくなどの対策を強めることが有効であることから、他に比肩しない子育て環境の充実を図ることで、子育て世代が不安なく子育てをし、更に生み育てたいと思える環境を形成するとともに、子育て世代の流入といった社会増も誘引していきます。 令和2年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、妊婦と胎児への影響が心配され、心理的な不安から妊娠控えにつながっているとみられることから、その不安を和らげるよう周知啓発を図るとともに、新しい日常におけるライフステージごとの支援について検討していきます。							

基本目標3「結婚・出産に先んじて子育てのトッランナーを目指す、佐久市における『ひと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況（1）子育て世代が実感する子育てのトッランナーの実現

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
第2子以降の出生数【子育て支援課調】	目安値		360	360	360	360	360	人
	実績値	360	388					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	多子世帯の保育料軽減などの保育サービスをはじめ、妊産婦への医療費自己負担分の助成や「教えて！ドクター」による疾病時の不安の軽減、つどいの広場などによる交流や相談の場の提供等、各種子育て支援事業の充実を図ってきたことにより、目安値を上回りました。 ※ 「教えて！ドクター」：子ども疾病対応出前講座。病気に対する知識習得による不安解消と子育て力向上を図る。 ※ つどいの広場：子育て中の保護者が気軽に集まり、情報交換や子育て専門相談員が子育てに関する悩みの相談に応じる。							

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
「子育て支援・児童福祉」についての満足度【満足度・重要度市民アンケート】	目安値		36.0	37.5	39.0	40.5	42.0	%
	実績値	34.6	35.3					
	進捗区分		概ね順調					
進捗状況の分析	目安値には達していないものの、多子世帯の保育料軽減などの保育サービスをはじめ、妊産婦への医療費自己負担分の助成や「教えて！ドクター」による疾病時の不安の軽減、つどいの広場などによる交流や相談の場の提供等、各種子育て支援事業の充実を図ってきたことにより、基準値と比較して満足度は向上しています。 ※ 満足度は、「満足」と「やや満足」の合算値となります。							

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況（2）人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

指標名	年度別評価	H27～H30の累計 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
子育て支援情報サイトへのアクセス数 (計画期間の累計) 【子育て支援課調】	目安値		12,600	25,200	37,800	50,400	63,000	回
	実績値	48,108	13,580					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	サイトの認知度も定着し、目安値を達成しました。 ※ 「パパママフレ」：利用者が知りたい子育てサービスが容易に検索できるサイト（官民共同で運営） ※ 市の子育て支援情報サイト（パパママフレ）へのアクセス数							

基本目標3に係る具体的な取組の進捗状況

(1) 子育て世代が実感する「子育てのトップランナー」の実現

- ① 「一歩先を行く保育」を実現する新たな保育施策の展開
- ② 保育士が働きたいと思える環境の構築
- ⑥ 乳幼児の疾病に対する対処法の周知
- ⑦ 子育て支援拠点の機能充実と活用
 - ・ 利用者支援事業及び子育てサロン事業の実施
 - 利用者支援事業、サングリモ中込において子育て支援コーディネーターが子育てに関する情報提供や相談に応じる。
 - 保育士、栄養士、保健師等を子育て相談員に委嘱し、小学生が利用しない午前中の児童館で保護者が幼児とともに過ごしつつ、子育てに対する悩み、不安の解消を図り、育児の楽しさを見出すことを目的に「子育てサロン」を開催する。
 - ※ 新型コロナウイルス感染防止のため、4月～6月の3か月間子育てサロンの開催を中止し、同期間利用者支援事業は電話での相談対応
 - 【開催実績】延べ210回（市内19箇所）、利用者数 延べ4,009人
 - ・ 子育て親子の交流の場の提供や交流の促進、子育て等に関する相談などのほか、育児に関する専門的な話し等が聞ける育児講座（「つどいの広場」）の実施（各会場月1回 運動あそび、親子ヨガ、人形劇、食の話、ベビーマッサージ等実施）
 - ※ 新型コロナウイルス感染防止のため、4月～6月の3か月間つどいの広場の開催を中止
 - 【開催実績】延べ610回（市内4箇所）、利用者数 延べ13,361人
 - ・ 「教えて！ドクター」冊子改訂版を作成するとともに、オンラインを含めた出前講座の開催（全9回）
- ③ 子ども福祉医療費給付金制度の拡充・継続
 - ・ 福祉医療受給者証の交付者数及び支給件数
 - 1）子ども（14,925人）・支給件数（127,070件）、2）母子家庭の母子（1,872人）・支給件数（18,220件）、3）父子家庭の父子（109人）・支給件数（689件）
 - 4）未熟児養育医療受給者数及び支給額 受給者数 31人・支給額12,406,939円
- ④ 不妊治療及び不育症に対する支援（コウノトリ支援事業）
 - ・ 助成件数及び交付総額 150件・24,843,996円（一人当たりの平均交付額 165,627円）、令和2年度実績 交付者150組（うち、妊娠86組、出生47組）
- ⑤ 産前・産後における妊産婦に対する支援
 - ・ 福祉医療受給者証の交付者数及び支給件数 交付者数（1,040人）・支給件数（6,969件）
 - ・ 産後ケア（アウトリーチ型）利用件数 127件（実利用人数：105人）
- ⑧ 奨学金制度の充実
 - ・ 償還金の償還一部（1/3以内）免除 対象者23名中10名が利用

(2) 人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

- ① 官民協働による「子育て支援情報サイト」の運営
 - ・ 官民協働による子育て支援情報サイト「パパママフレ」による情報発信（アクセス数：13,580回）
- ② 子育て情報の発信
（当該年度は、総合戦略に対応した実績なし）
- ③ 子育ての先進地としての地域外への情報発信
（別途記載済み）

基本目標 4

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年度別 評価	H28 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
市内事業所の従業員数 【経済センサス】	目安値		—	41,060	—	—	41,800	人
	実績値	40,327	—					
	進捗区分		非公表					
総合分析	基本目標 4 の数値目標は、国の基幹統計調査に基づき設定しています。R2は、経済センサス活動調査が令和3年6月現在実施されていますが、調査結果が公表されていないため、「未公表」となります。 「市内事業所の従業者数」は、H28において目安値を下回ったものの、基準値（H26）の40,203人から124人増加しています。企業誘致や企業の経営基盤強化、新たな働き方の創設などによる雇用の確保など、安心できる暮らしを支えるための「しごと」の確保に向けた取組を引き続き推進することが必要です。 一方、事業所数は基準値（H26）において4,848事業所だったものが、H28では4,730事業所と、いったん減少傾向にありましたが、R1においては、5,210事業所と増加しています。事業所数は増加しているものの、市内事業所の従業員数の増減が不明であり、基盤の脆弱な中小事業所が増えていることも予想されるので、引き続き対策の着眼点を広めることが必要です。新たな働き先として企業の新規立地を進めることは継続して注力しながら、これに加えて、働き方や働く職場の多様化を図ることで、地域外からの新たな働き手の流入や、地域内で未就労である女性、高齢者などの層の就労を促すことも重要と考えます。							
R3の取組方針	住民が安心して暮らしていくためには、「しごと」があり、経済的に安定していることが重要であることから、第 1 期総合戦略から進める地域に「しごと」をつくる施策に引き続き取り組む必要があります。 さらに、本市への移住の傾向や移住者の意向からは、「しごと」は、移住の直接の目的としての位置付けより、他の要因による移住に際して暮らしの安定を担保するためとの位置付けが強い側面もあることから、それを踏まえた対応が重要です。 ポストコロナを見据え、その仕事があることで人を引き付けるような企業や職種の誘致・創出はもとより、第 1 期総合戦略で明らかとなった、減少傾向が見られる分野の現状の打開や本市の強みである「健康長寿」を生かした産業への支援を図り、多様な職場や働き方を設けることにも特に注力して、暮らし続けるための安心の提供を推進します。							

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況
（1）新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
テレワーク施設の 設置・運営補助に よる事業所の立地 件数及びテレワー ク拠点施設におけ るオフィス契約企 業数（計画期間の 累計）【商工振興 課調】	目安値		1	2	4	6	8	社
	実績値	2	6					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	内訳は、テレワーク施設の設置・運営補助による事業所の立地がH30年に1件、R1に2件ありました。また、テレワーク拠点施設「ワークテラス佐久」におけるオフィス契約企業としてR2に4件獲得し、目安値を達成しました。 働き方改革やICTの発達が進む中、「ワークテラス佐久」を拠点として市内でのテレワーカーやサテライトオフィス設置企業の増加が今後も期待されます。							

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況
(2) 世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進

指標名	年度別 評価	H28～H30の平均 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
ヘルスケア関連産業における新製品・新技術の開発件数（計画期間の累計）【商工振興課調】	目安値		3	6	9	12	15	件
	実績値	2.66	11					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	H29末に佐久の強み（健康長寿）を生かした産業振興の推進を事業の柱の一つとする佐久産業支援センターを設立し（H30（6月）に一般社団法人化）、ヘルスケア関連産業における新製品・新技術の開発支援を開始したことなどにより、着実にヘルスケア関連の新製品等の開発が増加しています。R2は11件の新製品の開発があり、目安値を達成しました。							

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
「福祉・介護のつばさ事業」に基づく支援事業を通じた地域事業者による外国人材の受入れ人数【高齢者福祉課調】	目安値		36	52	68	84	100	人
	実績値	22	31					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	介護人材還流創出事業の推進により、介護事業所の外国人材の受入れ人数が増加しました。引き続き事業の推進に取り組めます。 ・福祉・介護のつばさ事業連絡会議の運営（書面により3回開催）・外国人介護人材確保対策コーディネーターの設置（1名配置） ・外国人生活相談窓口の設置（3名配置）・各種研修の実施（日本語語学教室及び研修会、交流イベントの開催）・生活ガイドブックの制作、配布（やさしい日本語、インドネシア語、ベトナム語、ポルトガル語、中国語版の制作及び外国人介護人材への配布）・通勤環境の整備（市バスの乗り方や時刻表の見方などのパンフレットの制作）							

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況
（3）官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

指標名	年度別 評価	過去5年の累計 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
ものづくり補助金 を活用して開発さ れた新製品・新技 術数（計画期間の 累計）【商工振興 課調】	目安値		2	4	6	8	10	件
	実績値	11	2					
	進捗区分		順調					
進捗状況の分析	ものづくり補助金を活用して開発された新製品は2件であり、目安値を達成しました。 補助事業は、対象者が共同開発を行う中小企業という条件がありますが、佐久産業支援センターの設立により企業紹介を行うなど企 業間の連携が図りやすくなってきたことから、今後、本補助事業の利用が増えてくると考えられます。							

基本目標4に係る具体的な取組の進捗状況

(1) 新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出

- ① **新たな働き方の推進**
(別途記載済み)
- ② **空き店舗を活用した創業支援**
 - ・ 補助件数 新規：16件・継続：37件、補助総額：1,870万円
- ③ **求職者への支援と企業とのマッチング支援**
 - ・ 佐久職業安定協会事業として、就職ガイダンスの開催、企業ガイドブックの作成及び配布、高校生対象の事業所見学会
 - ・ 佐久市勤労者互助会事業として、会員への保険給付事業を実施
 - ・ 市単独事業として、市内での就職面接会、中小企業退職金共済掛金補助、インターンシップ事業（事業所向け及び学生向け）、移住者雇用対策補助、資格取得費補助、勤労者のための生活資金の融資を実施
 - ※ 就職支援員による学校訪問及び企業訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響により、電話による聞き取りを中心とし東京での就職面接会は中止
- ④ **オンラインでつながりキャリア形成を図る、「SAKUテレ・インターン」の実施**
(R3からの実施事業)
- ⑤ **スマート農業の推進と農業法人化の促進**
 - ・ 就農相談を15回実施し、参加者36名中10名が就農見込
 - ・ 認定農業者数については、新規認定6件（認定農業者数：287人（R3.3月末））
- ⑥ **希望するワーク・ライフ・バランスの実現の支援**
 - ・ 県が実施する「社員の子育て応援宣言！」制度の市内企業登録者数：90（R3.3月末）
- ⑦ **男女共同参画社会の実現**
 - ・ 佐久市男女共同参画推進事業者表彰：2事業者（榊堀内組、岸野親芋の会）
 - ・ 地域活動等における各種団体等の支援として、パートナーシップ佐久と連携し、国や県が主催する講演会研修会等へ参加
 - ・ 方針決定過程への女性の参画推進として、佐久市における女性の公職参画状況調査を実施し、審議会等への女性登用の呼びかけ
- ⑧ **佐久市型スマートワークの情報発信**
(別途記載済み)

(2) 世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進

- ① **「ジャパンプランド『健康長寿』推進事業」の展開**
(別途記載済み)
- ② **「福祉・介護のつばさ事業」の展開**
(別途記載済み)

(3) 官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

- ① **「健康長寿」を核とした産業支援**
 - ・ 佐久産業支援センターと連携した市内企業に対するものづくり支援や技能講習への支援
 - ・ ものづくり支援事業においては、2事業に対して支援を行うとともに、佐久産業支援センターの提言を基に新型コロナウイルス感染症に対する企業支援策を構築
 - ※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、販路拡大事業、職場改善活動、技能養成事業等を実施できなかった
- ② **工業団地整備と空き工場等の活用による企業誘致**
 - ・ 産業立地推進員による電話対応（346件）により企業ニーズの把握及び佐久臼田インター工業団地の情報提供
 - ・ 佐久臼田インター工業団地については、造成工事に着工し令和3年夏頃の完成を予定
 - ・ 同工業団地の分譲募集はチラシ送付、ホームページ掲載、金融機関訪問等により実施し、全5区画への進出企業が内定
- ③ **技能・知識の獲得の支援**
 - ・ 交付実績 1件（大型特殊自動車運転免許）

地方創生推進交付金事業

地方創生推進交付金事業の効果検証①

ジャパンブランド「健康長寿」推進事業 ～"SAKU Health-care model"の構築・展開を目指して～

事業概要	「健康長寿」の魅力や要因、今後の活用方法等に関する調査を行い、「健康長寿」を食生活や運動、保健医療、子育て支援などライフスタイル全般にわたる総合的なコンテンツパッケージとして世界に向けて発信・展開できるブランドとして確立するとともに、保健や医療、高齢者介護等の分野における視察の受入れにより、日本（佐久）の健康づくりや医療、介護等のシステム、ヘルスケア関連機器等の製品を世界に向けて売り込み、輸出の拡大につなげていく。 また、「健康長寿」を地域産業の活性化につなげるため、ヘルスケア関連産業を成長産業として育成するとともに、「健康長寿」を核としたまちづくりの推進により、まちの賑わいを創出する。 さらに、地域住民のより一層の健康増進を図り、「健康長寿」ブランドにさらなる磨きをかけるとともに、将来にわたり地域が「健康長寿」であり続けられるよう、歩行を通じた健康づくりをはじめとする、それぞれのライフステージの課題に応じた健康づくり事業を展開し、特に生涯を通じた健康づくりの基盤となる幼少期からの健康づくりにおいては、子どもの健康づくり及び子育て支援をワンストップの拠点で提供する体制やメニューを確立する。							
指標名	年度別 評価	H27 (基準値)	H28	H29	H30	R1	R2 (目標値)	単位
保健医療のシステム やヘルスケア関連機 器等の海外輸出につ ながった件数（累 計）	目安値		0	2	4	7	10	件
	実績値	0	0	0	1	4	4	
	進捗区分		実績値なし	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
「健康長寿」に関連 した新たな事業（創 業、新規事業、新製 品・新技術の開発、 新規立地等）創出件 数（累計）	目安値		0	2	5	10	20	件
	実績値	0	3	6	18	29	47	
	進捗区分		順調	順調	順調	順調	順調	
進捗状況の分析	H28に佐久市健康長寿産業振興ビジョン及び佐久市健康長寿まちづくり計画を策定するとともに、H30（6月）には一般社団法人佐久産業支援センターを設立し、ヘルスケア関連産業や「健康長寿」を生かした新たな事業等の創出・拡大に努めているところです。R2は、新製品の開発が11件、創業が4件、新事業が3件あり、「健康長寿」という強みや市の取組が市内企業等に着実に浸透し、ヘルスケア関連の事業に対する意欲が高まっているものと考えられます。							
今後の取組方針	H30（6月）に一般社団法人として立ち上げた「佐久産業支援センター」において新製品・新技術の開発、販路拡大等を支援することにより、ヘルスケア関連機器等の海外輸出及び「健康長寿」に関連した新たな事業創出件数の増加に努めます。							

地方創生推進交付金事業の効果検証②

佐久市シティプロモーション推進事業～シルクルスムサイクルによる「健やかなくらし佐久」～

事業概要	佐久市シティプロモーション基本方針に基づき、メインターゲットを20代から40代の東京圏在住者及び市民とし、市の卓越性等を適切な情報発信により、東京圏在住者に佐久市を認知・理解してもらい、来訪による交流人口、関係人口の創出を、また、市民には、シビックプライドの醸成により、転出者の抑制やUターンにつなげ、移住定住人口増加による人口減少の抑制と佐久市の創生に資する。					
指標名	年度別評価	H30（基準値）	R1	R2	R3（目標値）	単位
東京圏からの20代から40代の移住者数（累計）	目安値		24	39	57	人
	実績値	12	25	64		
	進捗区分		順調	順調		
佐久市の認知度（対象：東京圏在住20代～40代）	目安値		45.6	50.0	55.0	%
	実績値	41.6	39.8	41.5		
	進捗区分		努力を要する	努力を要する		
佐久市への来訪者指数（対象：東京圏在住20代～40代）	目安値		23.6	26.0	29.0	%
	実績値	21.6	20.6	20.3		
	進捗区分		努力を要する	努力を要する		
シビックプライドポイント（誇り指数）	目安値		20.0	21.0	25.0	ポイント（pt）
	実績値	19.0	29.8	40.8		
	進捗状況		順調	順調		
進捗状況の分析	昨年度は、東京圏認知話題化施策として、Slackを使ったオンラインサロン「リモート市役所」を開設し、佐久市にゆかりのあるゲストを招いたオンラインイベントの開催等に取り組みました。新型コロナウイルス感染症の影響により「クル」を推進する施策を実施することができませんでした。 効果検証のアンケートでは、市民のシビックプライドの上昇は見られましたが、認知度・来訪者数の指標が横ばいでした。					
今後の取組方針	効果検証アンケートで「認知度・来訪者」の指標が横ばいであったことから認知度を向上させるための取組を継続し、認知度の向上に努めます。 R3は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、引き続き認知度を向上させるための施策に取り組み、移住する前の来訪・体験するための情報提供に取り組みます。					

地方創生推進交付金事業の効果検証③

佐久市「しごと」の創生（創業支援・まるっとテレワーク推進）事業

事業概要	暮らしやすさを誇る本市に移住を促し、「働き方改革」に伴うワークライフバランスを実現させるため、市内においてテレワークの拠点整備を行い、施設の利活用による新たな「しごと」の場を提供することで、市外からの移住者やＵターン者などの創業により市内定着人口の増加につなげる。また、地域には出産を機に仕事を辞めざるを得なかった女性や育児中により働きたくても働けない方、起業をしてみたいがどうしたらいいかわからないといった若者の声も多く聞かれている中、創業支援事業により地域内において開業といった「しごと」を生み出すことで、開業に伴う地域の活性化を図るとともに、市外への転出を防ぎ、定住人口確保する。					
指標名	年度別評価	H30（基準値）	R1	R2	R3（目標値）	単位
首都圏等からのＵ・Ｉ・Ｊターンによる創業者数（累計）	目安値		2	6	10	人
	実績値	0	4	9		
	進捗区分		順調	順調		
支援事業を通じた「女性起業スタートアップ事業講座」への参加者数（累計）	目安値		12	24	26	人
	実績値	0	23	46		
	進捗区分		順調	順調		
支援事業施設におけるサテライトオフィス契約企業数（累計）	目安値		2	4	6	社
	実績値	0	3	5		
	進捗区分		順調	順調		
支援事業施設における市外テレワーカー利用者数	目安値		20	60	100	人
	実績値	0	88	589		
	進捗区分		順調	順調		
進捗状況の分析	R2（４月）からテレワーク施設「ワークテラス佐久」がオープンしました。 創業支援に関しても、「子育て期の小さな創業・副業を支援する」や「子育てをしながら創業して事業を営んでいる女性テレワーカーの事業の成長促進を支援する」などの事業に取り組み、講座を実施しました。こうした取組により、首都圏等からのＵ・Ｉ・Ｊターンによる創業者数が５人、支援事業を通じた「女性起業スタートアップ事業講座」への参加者数が２３人、支援事業施設におけるサテライトオフィス契約企業数が２社、支援事業施設における市外テレワーカー利用者数が５０１人となりました。 いずれも目安値を上回る実績値となっており、順調に事業が進捗しているものと考えます。					
今後の取組方針	R1（４月）から指定管理者による「ワークテラス佐久」の管理運営を開始し、当施設における新たなサテライトオフィス契約企業やテレワーク利用者の獲得及び創業の促進を図っていきたくと考えますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用を一部制限している部分もあり、感染拡大防止を徹底した上での事業展開を図っていきます。					

地方創生推進交付金事業の効果検証④

福祉・介護のつばさ事業～「アジア健康構想」に基づく外国人材還流の創出による佐久式介護のアジア展開～

事業概要	現在国が推進する「アジア健康構想」に基づき、東南アジア諸国での介護サービス提供を支える人材を佐久地域で育成するとともに、民間事業者の海外展開により帰国後の職場を創出する循環型の仕組みと体制を整備する。これにより、本地域に不足する福祉・介護産業の担い手の創出をも図り、地域中核産業の持続的な発展を目指す。					
指標名	年度別評価	H30 (基準値)	R1	R2	R3 (目標値)	単位
支援事業による地域事業者の福祉・介護関係の海外展開案件の創出件数（累計）	目安値		0	1	2	件
	実績値	0	0	1		
	進捗区分		実績値なし	順調		
支援事業を通じた地域事業者による外国人材の受入れ人数（累計）	目安値		10	30	50	人
	実績値	0	22	31		
	進捗区分		順調	順調		
進捗状況の分析	R1は「福祉・介護のつばさ連絡会議」を立ち上げ、事業コーディネーターを配置し、外国人介護人材の確保と定着のための官民連携による推進体制の構築を進めるため、佐久地域の介護事業者向けの研修会や、生活ガイドブックの制作など、外国人介護人材の受入れ体制の構築を進めました。R2は、これに加え外国人材の通勤環境の整備や、生活ガイドブックの制作及び配布、また、日本語語学教室の開催など生活のための支援などを追加し、1年目に構築した受入れ体制の充実を図りました。介護人材還流創出事業の推進により、介護事業所の外国人材の受入れ人数が増加しました。引き続き事業の推進に取り組みます。 ・福祉・介護のつばさ事業連絡会議の運営（書面により3回開催）・外国人介護人材確保対策コーディネーターの設置（1名配置） ・外国人生活相談窓口の設置（3名配置）・各種研修の実施（日本語語学教室及び研修会、交流イベントの開催）・生活ガイドブックの制作、配布（やさしい日本語、インドネシア語、ベトナム語、ポルトガル語、中国語版の制作及び外国人介護人材への配布）・通勤環境の整備（市バスの乗り方や時刻表の見方などのパンフレットの制作）					
今後の取組方針	本市で介護を学ぶ外国人材の更なる増加を図るため、外国人材の受入体制を整備し人材還流の仕組みを構築します。また、市の福祉・介護の国際展開を図り、関連産業の収益力を向上させるため、産学官連携の場の創出と地域住民の行動変容を促進する健康・予防事業を展開していきます。					

31